

平成25年5月27日

[横倉 廉幸 議員](#)



## 1 今後の環境農林水産行政について

〈横倉議員〉

南大阪食肉地方卸売市場については、10年前に、再編整備を行い「南大阪食肉市場株式会社」として民営化され、この会社の経営を軌道に乗せるため、府は当時、約25億円の貸付を行い、10年かけて均等返済して頂くこととした、しかし、その貸付金が、この4月に最初の返済期限を迎えたが、「現在まで、初回返済分の約2億5千万円が未実行」とのことでありました。

貸付金は府民の資産でもあり、府として今後どう対応していくのか。

〈松井知事〉

南大阪食肉市場株式会社に対する貸付金25億3900万円の返済については、第1回分、2億5390万円が期日に返済されていないので、現在督促を行っている。

同社は、平成14年以降、食肉の卸売市場機能を有する民間会社として運営されてきたが、同社に対する府の貸付金は、府民の財産でもあるので、約定に従って、返済してもらうのが基本であると考えている。

今後、会社から返済に向けた具体的な取組が示されなければ、速やかに担保権の行使など法的措置に基づき、債権の回収に取り組んでいく。

## 2 水都大阪の推進

### 〈横倉議員〉

さきごろ、開催された「水と光のまちづくり推進会議」が策定した基本方針の中に、「世界各国から注目される・水と光のシンボル空間を実現」するため、大阪城から中之島、大阪湾までをつなぐ「東西軸」と都心部の「水の回廊」を中心に他都市に類を見ないリバークルーズや水辺の賑わい、圧倒的な光景観の創出によって、世界各国から注目される「水と光のシンボル空間」を実現する。と書かれています。

世界各地に、さまざまなリバークルーズがある中で「他都市に類を見ないリバークルーズ」とありますが、現状のリバークルーズがどのような利用状況にあるのか。また、その上でどのようなリバークルーズを実現しようとしているのか。そのイメージを示していただきたい。

### 〈府民文化部長〉

利用者数は、平成13年度の約40万人から、平成22年度には、年間約50万人と、10年間で約10万人増加しています。

今後の魅力づくりについては、水と光のまちづくり推進会議の方針に基づき、水都大阪パートナーズを主体として、また、公民の役割分担を踏まえつつ、府と市が共同して取り組みを進めます。

取り組みの一環として、水と光の首都にふさわしい新たなシンボル空間づくりを進め、大阪城や道頓堀などの主な集客拠点とクルーズ船で結ぶなど、回遊性を高めます。

さらに、回遊する楽しみが際立つよう、回廊沿いの飲食店や魅力スポットを、船を使って、はしごして回るような企画を盛り込み、水と光とさまざまな食が楽しめる、他の都市に類を見ないリバークルーズの実現を目指します。

### 〈横倉議員〉

水の回廊の中で、東横堀川や西道頓堀川での魅力づくりは、まだまだ手つかずの状態です。そのエリアは大阪市の所管ということですが、世界的な観光集客や国際会議誘致などの武器になる水の回廊の魅力づくりには、府市共通の戦略で取り組み、トータルな整備が不可欠となります。

そこで今後、東横堀川や西道頓堀川の魅力づくりをどのように進めようと考えているのですか。

〈府民文化部長〉

水の回廊の魅力を高め、回遊性を向上させるには、府と市が共同で取り組むことが重要です。

ご指摘の東横堀川、西道頓堀については、今年度、大阪市において整備のあり方検討が進められるところであり、このエリアを含む水の回廊の魅力づくりについて、府と市が一体となって取り組んでまいります。

〈横倉議員〉

府市が連携して、水の回廊のトータルな魅力づくりを進めていただくことはもちろん重要です。しかし、スピード感というものも大切であり、水の回廊とうたっているのですから、まず回廊という根幹を整備することが第一ではないかと思っております。

「水の回廊」は世界に誇る大阪の財産です。中でも道頓堀界隈は一級の観光スポットでもあります。しかしながら、道頓堀をせき止めて、プールにするという計画が進んでいます。

この計画では、プールを設置している間は、船が通れないため、水の回廊の最大の魅力である船による道頓堀の観光ができなくなってしまいます。

道頓堀のプール計画については、いろいろな課題があると考えられますが、この計画に対し府としてどのように対応していくのですか。

〈府民文化部長〉

道頓堀プールは、民間によるプロジェクトで、本年4月、地元関係者を中心とした準備会社が発足し、事業化の可能性を検討されると聞いております。

事業化には、舟運事業との調整のほか、大雨で増水した時の対応、護岸や遊歩道など河川施設への影響、水質管理など衛生上の問題等、解決すべき課題があります。

こうした課題には、事業者の責任で適切に対応していただくことが必要ですが、府としては、大阪市とともに、防災・安全面の課題への対応や規制緩和などに、可能な範囲で協力してまいります。

〈横倉議員〉

次に2015年に向けた取り組みについてお尋ねします。

道頓堀開削400年の節目となる2015年を大阪繁栄のシンボルイヤーとすべく、水都にふさわしい記念イベントを実施すべきと考えますがどうでしょうか。

〈府民文化部長〉

大阪都市魅力創造戦略では、道頓堀開削400周年、大阪城まちづくり400年祭など、さまざまな節目にあたる2015年を「シンボルイヤー」と位置づけています。

このシンボルイヤーとなる2015年に向け、水の回廊の魅力づくりにより創り出された、にぎわいや魅力あるスポットを活用し、民間主体のプロジェクトやイベント

を展開し、「水と光」の魅力にあふれる回廊を内外に広くアピールする「水都大阪2015」の開催を検討してまいります。



〈横倉議員〉

大阪の水の回廊を「水と光のシンボル空間」として、世界的なスケールの名所とするならば、「水の回廊」のモデルである、サンアントニオ市と是非とも連携を図るべきと考えます。

アメリカ「テキサス州・サンアントニオ市」をはじめ先駆的な取り組みを行う世界の都市と連携を図るべきと考えますがどうでしょうか。

〈松井知事〉

水都と呼ばれる都市は、国内外にたくさんあり、良きライバルとして、互いに水都の魅力づくりを学び、高めあうという観点からの連携は重要です。

民間主導の事業推進組織である水都大阪パートナーズを通じて、サンアントニオをはじめ、シンガポール、パリ、ロンドン、アムステルダムといった世界の水都と呼ばれる都市との連携を図って行きたい。